

21世紀における 宗教の役割と 同志社の展望

1. 「つなぐ力」 としての宗教

宗教の起源

- 死者の葬送
- 死者からの影響を抑制するための「とむらい」
- 例：御霊信仰（平安時代）
- 見えない世界との交流
- テレプレゼンスへの本源的欲求



テレプレゼンスへの憧憬

- テレプレゼンスとは
- 日常世界から遠く離れた場所や時間を身体的に経験すること。
- 現代の例：テレフォン、



テレプレゼンスの歴史

- テレプレゼンスの起源
- 日常世界と超越的世界の交流
- 死者と生者の交流
- 人間の「こころ」の深層（たましい）との交流
- テレプレゼンスを可能にするバーチャル空間
- 祭り、教会堂など

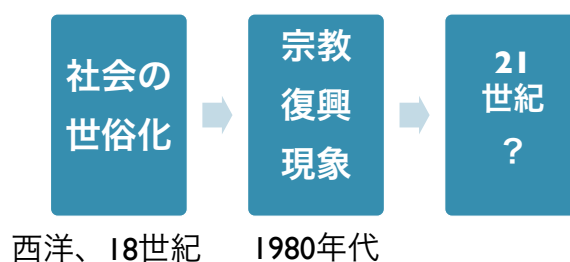


過去と現在を結ぶ テレプレゼンス

- 歴史を学ぶことの意味
- 新島襄の生き様、同志社の歴史を学ぶことの意味
- ロール・モデルとしての新島襄

2. グローバル・アクターとしての宗教

20世紀後半の変化



「原理主義」とは何か

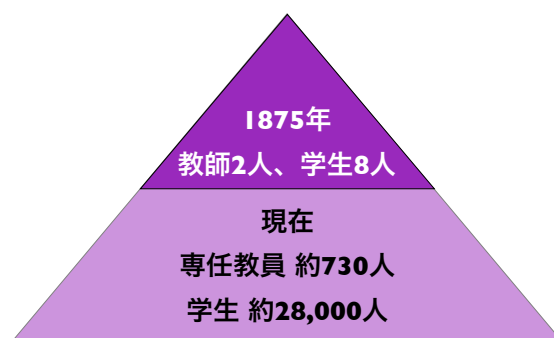
- ファンダメンタリスト (Fundamentalist)
- 1920年代に、キリスト教保守派が進化論や近代的な聖書批評学と対決するために用いた「自称」であった。
- イラン・イスラーム革命 (1979年) 以降、警戒すべきイスラーム運動に対して原理主義という言葉が転用された。

グローバル社会における「原理」の模索

- 原理主義の原型としての宗教改革
 - 「聖書のみ」「信仰のみ」
- グローバリズムとその反動
- 固有の文化、その核にある宗教性の強調。cf. 中東の民主化運動

3. 同志社の展望

同志社の変化



同志社の教育理念

